

地域再生計画「山代の里は水源の郷」～住んでよし訪れてよしの山代を目指して～の評価について

1 地域再生計画の名称

「山代の里は水源の郷」～住んでよし訪れてよしの山代を目指して～

2 地域再生計画の作成主体の名称

山口県、岩国市

3 地域再生計画の区域

岩国市の区域の一部（山代地域：錦町、本郷町、美和町、美川町）

4 計画期間

平成20年度～24年度

5 地域再生計画の目的

山代地域の道路網は、屈曲部が多く幅員が狭いことから、農林業の発展、間伐等の森林整備、人的交流、情報流通などにも支障をきたしており、道路網、林道網の整備が課題となっている。

このため、山代地域を活性化し、持続的な発展を促進させるために、生活基盤の整備や農林水産業の振興を図り、地域固有の環境資源、伝統文化を保全・活用し、都市部との交流を活発にして地域活性化を促進させる諸施策の展開方策により市道、林道等、地域内の道路交通網の一体的な整備を中心とする産業・生活基盤の整備と併せ、本地域と都市部等他地域との交流を促進する関連事業により、本地域の産業・生活基盤の利便性・魅力の増進を図り、都市・農山村交流人口の増加を目指す。

6 地域再生計画の目標

- (目標1) 都市・農山村交流人口の増加 (所管窓口 道路課)
- 市道整備によるアクセスの改善 (立岩から大田原までに要する時間)
現在 15分 → 平成24年度 5分 (10分短縮)
 - 農林業及び自然体験交流人口 (所管窓口 農林振興課)
(滞在型体験農園施設、市民農園、らかん高原、こども農山漁村交流プロジェクトほか)
平成18年度 26,800人 → 平成24年度 28,200人 (5%増)
- (目標2) 農林業の振興 (所管窓口 農林振興課)
- 間伐実施面積 平成18年度 440ha → 平成24年度 460ha (5%増)
- (目標3) 中山間部におけるU J Iターンの増加 (所管窓口 市民協働推進課)
- U J Iターンの斡旋人数 (累計): 60人増加

7 目標を達成するために行う事業

- 地域再生基本方針に基づく支援措置を活用する事業

[施設の種類の種類]	路線名	(事業区域)、事業主体]
・市道	秋掛5号線、西畑1号線	(岩国市) 岩国市
・林道	日の浦線、久保田線	(岩国市) 山口県、岩国市

[事業期間]

- ・市道 平成20年度～23年度
- ・林道 平成20年度～24年度

[整備量及び事業費] 事業完了時点の実績

- ・整備量 市道 876m、林道 2,554m
- ・総事業費 439,082千円 (うち交付金 219,541千円)
 - 市道 161,000千円 (うち交付金 80,500千円)
 - 林道 278,082千円 (うち交付金 139,041千円)

○地域再生基本方針に基づく支援措置によらない取り組み（関連事業）

- (1) 過疎道路整備事業
- (2) 森林整備地域活動支援交付金事業
- (3) 林業生産基盤整備事業
- (4) 農地・水・環境保全向上対策事業
- (5) 県営中山間地域総合整備事業
- (6) 木質バイオマス利活用事業
- (7) バイオマスガス化発電の実証実験事業
- (8) 「やましろツーリズム・ビジネス」実戦塾

8 目標の達成状況に係る評価

1) 目標達成状況

項目	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
目標 1	15 分	15 分	15 分	15 分	15 分	5 分	5 分
	人 26,800	人 14,566	人 15,006	人 14,701	人 15,064	人 13,482	人 14,784
目標 2	ha 440	ha 392	ha 573	ha 547	ha 722	ha 749	ha 283
目標 3	人 0	人 10	人 4	人 13	人 4	人 6	人 14

2) 目標の達成状況に係る評価

目標項目	評価及び検証
(目標 1) 市道整備によるアクセスの改善	市道大田原立岩線（現在の市道秋掛 5 号線）田原、立岩間が約 15 分要していたが、整備後は約 5 分となり約 10 分の時間短縮となり、当初の目標を達成した。
農林業及び自然体験交流人口	目標年では達成目標を下回っている。その要因としては、市民農園や交流施設の利用者の減少による。今後は、市の広報誌等でのさらなる PR により、交流人口の増加に努める。
(目標 2) 間伐実施面積	目標年では達成目標を下回っているが、個々の年ではおおむね達成している。下回った要因としては間伐に対する国の補助制度改正により間伐材を搬出する手法に取組んだことから間伐実績が減少した。 今後は、路網整備の推進や森林所有者への説明会等を行なうことにより、間伐実施面積の向上を図る。
(目標 3) 中山間部における U J I ターンの増加	目標年度では達成目標値を下回っている。その一方では、移住に関する相談やホームページへのアクセス数などは順調に伸びていることから、空き家登録物件などを充実しながら U J I ターン増加につなげたい。